

大阪狭山の自然のオアシス

# 陶器山丘陵とあまの街道



大阪狭山市と堺市との境界をなす陶器山丘陵：大阪狭山市のまとまった緑地帯は今もこの処しかありません。貴重な自然です。昔、この丘陵は良質の粘土層と豊富な植に支えられて、五世紀から十世紀にかけて須恵器の生産地として栄えました。その後は、尾根道、金剛寺を経て高野山に至る参拝道、天野街道として賑わいを見せ弘法大師空海にまつわる伝承も陶器山七不思議として残されています。今回の特集は「あまの街道と陶器山の自然を守る会」の窪田由紀さん、同じく会員で写真家の森山達也さんのご協力でお上がりました。

豊富な森と自然は幾度かの開発で減ったとはいえ、まだ都会に

残った自然のオアシスとして多くの人々に愛されています。しかし今年の台風21号、24号で大変な被害を受けました。窪田さん、森山さんはその始末と復旧に毎日のように森にでかけられますが、同行して現場を見、話していただきました。繁った樹林の中を通る尾根道は自然の土に近い真砂土を使い、より自然に近い遊歩道になっています。平成7年、10kmの天野街道の内、往時の面影が残る3.5kmを整備して『あまの街道』と名付けられましたが、その間でも

多くの樹木が風で裂かれ、倒れ重なり無惨な姿を見せていました。しかし、その中を多くの人たちが歩いていました。これから先は窪田さんのお話と森山さんの写真で進んで参ります。

あまの街道をくぐって堺と狭山をつなぐ短い陶器山トンネル（1985年完成）、その上にはちよつとした広場と四阿があり、毎朝6時半には20人ほどの人が集まりラジオ体操が始まります。このラジオ体操は25年以上続いているとのこと。あまの街道には犬を散歩させる人、健康のために歩く人、走る人、リハビリに励む人などが行き交い、挨拶やちよつと

した言葉を交わし、時には園児達がどんぐり拾いに、小・中・高校生がマラソンに、また他市より団体さんがハイキングに訪れます。春は街道沿いにヤマザクラ、コバノミツバツツジ、モテツツジが次々と咲き、キンラン、ギンランなど絶滅の危機に曝されている花々も密かに咲いています。以前にはシュランも群生していたようですが、近年盗掘が相次ぎめっきり数が減りました。初夏に咲くササユリも根ごと持ち去られ、来年にはもうそこにはササユリは見られない：悲しいことです。カラスウリの開花は真夏の夕刻、白いレース編みのような花が徐々に開き、日没後に満開になる様はさながらナイトショー。秋はヤマザクラ、ウルシナンキンハゼなど紅葉もちらほら。落葉の上をサクサクと歩くのも心地良い。冬晴れの晴天はひとときわ空が広く、雪が降れば街道の雪景色もまた格別です。



須恵器



キンラン



ギンラン



カラスウリ